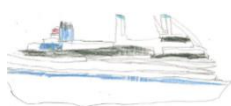


単元を通して、児童がもつ既有的知識や経験を
想起することで「考えの形成」を促す指導の工夫

～「つなぐ」をキーワードに～



庄原市立口和小学校

教諭 安藤 みのり



目次

I	研修テーマ	2
II	国語科学習指導案	2
III	指導の実際	9
1	単元の流れと使用した掲示物やワークシートについて	9
2	指導上の工夫	11
(1)	教材を自分事として読むために	11
(2)	考えの形成を促すために	12
(3)	全文シートの活用	14
3	児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体	15
	つまずき1 「知識や経験が乏しい、個人差がある」	15
	つまずき2 「選ぶ乗り物と自分の経験が繋がらない」	16
	つまずき3 「自分で調べた乗り物で内容の理解→精査・解釈の段階を踏むことが難しい」	16
	つまずき4 「感想をもつことが難しい」	17
IV	評価の実際	17
1	評価の具体	17
(1)	「知識・技能」の評価	17
(2)	「思考・判断・表現」の評価	18
(3)	「主体的に学習に取り組む態度」の評価	18
2	児童の評価	19
(1)	「知識・技能」の評価	19
(2)	「思考・判断・表現①」の評価	20
(3)	「思考・判断・表現②」の評価	22
(4)	「主体的に学習に取り組む態度」の評価	24
V	成果と課題	25
1	成果	25
2	課題	25
VI	単元を終えて	26
付録	選書リスト	27

研修のまとめ

I 研修テーマ

単元を通して、児童がもつ既存の知識や経験を想起させることで「考えの形成」を促す指導の工夫
～「つなぐ」をキーワードに～

II 国語科学習指導案

- 1 日 時 令和5年10月31日(火) 第3校時
- 2 学 年 第1学年 男子7名 女子1名 計8名
- 3 単元名 よもう、くらべよう、つなげよう ～ぼく・わたしはのりものやさん!!～
「いろいろなふね」(東京書籍 あたらしいこくご 一下)

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の指導事項(1)オ「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」を受けて設定している。

現行の学習指導要領から、国語科〔思考力・判断力・表現力等〕の各領域において、学習過程が一層明確化され、また、全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視するよう、「考えの形成」に関する指導事項が位置づけられた。学習過程は必ずしもその順序性を示すものではないが、「読むこと」の領域における「考え」とは「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の段階で理解したことを踏まえて、その上にさらに積み上げられるものである。よって、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の指導を充実させることで、「考えの形成」の実現につながる。

前述「文章の内容と自分の経験を結び付けて、感想をもつ」とは、文章の内容を、既存の知識や実際の経験と結び付けて解釈し理解を深め、文章に対して児童一人一人が思いをもつことである。

本単元で扱う教材文「いろいろなふね」は、特徴的な機能をもった4種類の船を例として取り上げ、役目や構造、設備について説明した文章である。児童にとって興味・関心をもちやすい「のりもの」が題材になっており、「知っている」「見たことがある」「乗ったことがある」など児童の既存の知識や生活経験とも結び付けやすい教材といえる。さらに、船に乗ったことはなくとも何かしらの乗り物に乗ったことや見たことは必ずあるだろうことが想定できるため、その経験と結び付けて感想をもちやすい。

(2) 児童観

本学級の児童は、これまでに、教材文「さとうとしお」「どうやってみをまもるのかな」の単元において、「問い」と「答え」を捉えること、文章の中から重要な語や文を抜き出すことなどを学習してきた。上記の既習内容については、多くの児童が目標を達成している。文章に書かれていることや挿絵を基にして、読んで分かったことを書き抜いたり、それを言語化したりすることもできている。また、教材文「どうやってみをまもるのかな」の事例の中から1番すごいと思ったものを選び、その理由を述べ合う活動を通して、叙述を根拠にして自分の意見を考えることを学んでいる。

本単元で育成したい資質・能力の「文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもつ」ことについては、前段の「文章の内容と自分の体験を結び付ける」ことにおいて、既存の知識や経験が浅いこと、且つ、生活している場が山に囲まれていることから、船について身近な乗り物だと捉えにくいことが考えられ、文章を自分事として捉えることが難しいのではないかと考える。

後段の「感想をもつ」ことについては、何らかの自分の思いをもつことができる児童は多いものの、内容は、「〇〇がすごかった。」など表面的な記述にとどまっている。今回のねらいは、文章と自分の体験とを結び付けることで、文章の内容を自分事として捉えて解釈し、理解を深めた上で感想をもつことである。このことについては、学習経験が乏しいため、自分の知識や経験を想起する場面や指導の工夫が必要であろう。

(3) 指導観

ア. 教材を自分事として読むために

(ア) 教材と関わる目的をもつ(単元のゴールの明確化)

- ・のりもののおすすめカードを作り店員になって紹介をするという、児童にとってわくわくするような単元のゴールを設定することで、自分事として学ぶことができるようにする。また、カードに自分の知識や経験を書くことで、読み手に乗り物のすごさが伝わったり、納得度を上げたりすることができることを経験させることで、自分の体験と結び付ける目的をもたせる。

(イ) 教材と自分自身を結び付ける場の設定

- ・単元の導入または単元に入る前に、乗り物に関する絵本の考え聞かせや題名読みを行い、児童の知識や経験を引き出すことで、教材と自分自身をつなげやすくする。
- ・単元の導入で、船について知っていることを付箋に書いておく。特に、「見たことがある」「知っている」「乗ったことがある」の知識や経験については引き出しておきたい。文章の内容を精査・解釈する場面で、付箋を文章または写真とつながるところに貼り直す。そうすることで、文章と自分自身をつなぎながら読む活動に取り組むことができると考える。

イ. 考えの形成を促すために

(ア) 学習過程の充実と考えの布石

- ・考えの形成へ向かうために、それまでの学習過程で何を読み取っておくのかを明確にした単元構成とする。また、随所で自分の知識や経験とのつながりを問うことで、考えを形成することの布石となるようにする。

(イ) 自分の知識や考えを引き出すための工夫

- ・自分の体験と結び付け、考えを形成するために視点を設ける。例えば、「見たことがある」「知っている」「乗ったことがある」などである。そうすることで、自分の経験と結び付けて感想をもちやすくする。またその際に、何についてどう思ったのかを問うことで、出来事を具体的に引き出したい。

(ウ) 試行錯誤できる時間と環境の確保

- ・考えを形成するためには、考えたけれど何か違う、書いたけれど上手くいかなかった、という経験も必要であると考え。学習過程を歩き来しながら、「おすすめカード」を作成させたい。国語の授業時数の多い低学年だからこそ、このような経験をすることができるので、時間の確保と書き直しが容易に行える工夫をする。

(エ) 感想をもつために

- ・感想を書く際にも、理由を問うたり、視点を設けたりする。そうすることで、ただ「〇〇がすごかった。」で終わらず、なぜすごいと思ったのか、どこがかっこいいと思ったのか、など、具体的な感想につながると考える。

5 単元の目標

- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。

(2) ア [知識及び技能]

- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) ウ

- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) オ

- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

6 単元の評価規準

学校図書館などを利用し、乗り物について説明された図書を読み、事柄の順序など情報と情報との関係について理解したり、文章の内容と自分の体験を結び付けて感想をもったりしながら「のりものおすすめカード」を作る活動を通した指導 【言語活動例 C(2)ウ】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 <p style="text-align: right;">((2)ア)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (C(1)ウ) ②「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 (C(1)オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで、文章の内容と自分の体験を結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、「のりものおすすめカード」にまとめようとしている。

<評価の具体及び手立て>

	<p>評価規準【「おおむね満足できる」状況（B）】</p>	<p>「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手立て</p>
<p>思考・判断・表現</p>	<p>「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p> <p>ア</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">はしごしや</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>④じぶんとつなげて しゃかいけんがくのときにはしごしやを見て、はしごがながくておどろきました。三かいまでとどきそうでした。水もたくさん出ていました。</p> </div> <div style="width: 35%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>③できること バケットには、みずをふきだすあなもあります。たかいところの火をけすときに やくだちます。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>②つくり はしごのさきには、しょうぼうしや たすけられたひとがのるためのバケットが ついています。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①やく目 かじのときに、たかいところにいる人を たすけるためのくるまです。</p> </div> <div style="width: 35%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑤むすびつけて はしごしやのはしごは、しゃしんで見るよりもながくて、なんだろうとおもいました。それは、たかいところにいる人にちかづいてたすけたり、ちかから水をかけてはやくけしたりできるようにしてあるからです。</p> </div> </div> </div> <p>イ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>⑥かんそう ぼくは、ふねも、じどうしやも、やく目にあうように、くふうしてつくられているとおもいました。たとえば、ポンプしやもひをけすから、おなじようなやく目だけけれど、はしごしやはたかいところせんようにつくられています。</p> </div>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 試行錯誤できる時間や環境を整える。児童は書いたものを消すことに抵抗感を持つ場合がある。よって、付箋で書き直せるように準備しておく。 ・ 友達の書いているものと交流する場を設ける。 <p>④自分の経験を書く際には、「知っている」「見たことある」「乗ったことある」などのマークが書かれた付箋を活用することで、書く視点を設ける。</p> <p>④自分の経験した場面の絵を描かせることで、文章化できなかったことについても引き出せるようにする。</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時間の振り返りを書きためたり、振り返りを交流したりする場を設定し、単元を通した、友達や自分の考えを振り返ることができるようにする。

7 指導と評価の計画（全 13 時間）

次	時	学 習 内 容 ★ <u>考えの形成の充実のためのポイント</u>	評 価			
			知	思	主	評価規準・ <u>評価方法</u>
一	1	★1 <u>教科書の扉のページを見たり、題名読みをしたりすることで、船についての知識や経験を引き出す。</u> ★2 <u>船について知っていることを付箋に書く。(※1)</u> 指導者が「のりものおすすめカード」を提示し、単元のゴールを共有する。				
二	2	教材文を読み、出てきた船はいくつ（種類）だったか数えることを通して、事例の数を把握する。 その順序を把握することで、文章構成の大体をつかむ。				
	3	どこからどこまでがそれぞれの船について説明してあるのかを捉えることによって、意味段落に分ける。				
	4・5	「やく目」「つくり」「できること」を確かめ、それぞれのふねには「やく目」があり、「やく目」に応じた「つくり」をしていることで「できること」があることを理解する。 ★3 <u>第1時で書いた付箋(※1)を文章とつながるところへ貼ることで、自分自身の経験とつなぐ。</u>	○			[知識・技能] <u>教科書・ワークシート・発言</u> ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
三	6 (本時) ・7 ・8 ・9	文章の内容と自分の経験を結び付けて、感想をもつ。 ★4 <u>「見たことがある」「知っている」「乗ったことがある」などの視点から、自分の知識や経験とつなげることを経験する。</u>		○		[思考・判断・表現②] <u>ワークシート・発言</u> 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。
四	10 ・11	並行読書してきた乗り物について、カードにまとめ、「のりものおすすめカード」を作る。		○	○	[主体的に学習に取り組む態度] <u>児童の様子・ワークシート</u> ・進んで、文章の内容と自分の経験を結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、「のりものおすすめカード」にまとめようとしている。 [思考・判断・表現①] <u>ワークシート・発言</u> ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選り出している。
五	12 ・13	「のりものおすすめカード」を紹介し合う。 これまでに学習したことと、自分の知識や経験を結び付けて、感想を書く。				

◇並行読書について・・・

単元のはじめに、調べたい乗り物を決めておく。(途中で変わってもよい)
学んだことを、自分が調べたい乗り物はどうなっているのか、随時取り扱う。

8 本時の学習

(1) 本時の目標

文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <p>2. 音読をする。</p> <p>3. 書き方を確認する。</p> <p>4. 経験を引き出す。(個人)</p> <p>5. 理由を交流する。(グループ)</p> <p>6. 文章の内容と経験が結び付いているか確かめる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>おすすめするりゆうを じぶんとつなげてかこう。</p> </div> <p>□おすすめする船には、どんなことが書かれていたのか、もう一度確かめながら音読しましょう。</p> <p>□おすすめしたい理由を書きましょう。 (書き方の説明をする。)</p> <p>○自分の経験とつなげる際の視点を提示することで、書く内容を決める支援をする。</p> <p>○付箋に書き出しの言葉などを書いておくことで、書く時の手掛かりにする。</p> <p>○単元の導入で書いた付箋も参考にするよう、助言する。</p> <p>○机間指導の際に、児童書いたものと文章や写真をつなげた評価をする。(「このことを書いたんだね。」)</p> <p>◆机間指導の際に、経験を引き出し、どのようなことを書くか決める支援をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしは、客船をおすすめします。見たことあるけれど、中にプールがあったから、お客さんも楽しく過ごせそうです。 ・ぼくは、漁船をおすすめします。乗ったことがあるけれど、大きなあみで魚をとるのが楽しいです。 <p>□同じ船を選んだ人同士で、理由を話しましょう。 その時に、まねしたいなと思うことがあれば、書き足してもいいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○くんの理由、いいね。ぼくもそのことを知っていたから、まねしてもいい? <p>○同じ船を選んだ人がいない場合には、少人数のグループへ混ざるよう声掛けをする。</p> <p>○友達の意見を聞くことで、自分では引き出せなかった知識や経験も想起できるようにする。</p> <p>◆「まねしたいこと」をポイントに聞くよう指導する。</p> <p>□先生もおすすめしたい理由を書き足してみました。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> のったことがあるけれど、うみがきれいでした。 </div> この付箋は何か違うから外そうかなと思っています。 どうして外そうと思ったか想像がつかますか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんだろう… ・詳しくないからかな? ・船のことが書いていないよ。 ・文章と合っていないよ。 	

<p>7. ふりかえり</p>	<p>○全体で考えが共有できるように、ペアトークや意見を反復させるなどの活動を仕組む。</p> <p>□自分の付箋を見直してみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは、文章と合っているな。 ・これは、文章と合っていないから、書き直そうかな。 <p>◆振り返りの視点を記したカードを掲示する。</p>	<p>・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p> <p>(発言・ワークシート)</p> <p>※本時では、感想をもつ前段階まで評価をする。</p>
-----------------	--	--

(3) 板書計画

※文しようとながっていない。

ふねのせつめいでない。
あっていない

🚢
うみがきれいでした。

🚢
のったことがあるのだけれど…

⚠️
○○がありました。

👁️
見たことがあるのだけれど…

拡大したワークシート

船の写真

- ・やく目…
- ・つくり…
- ・できてること…

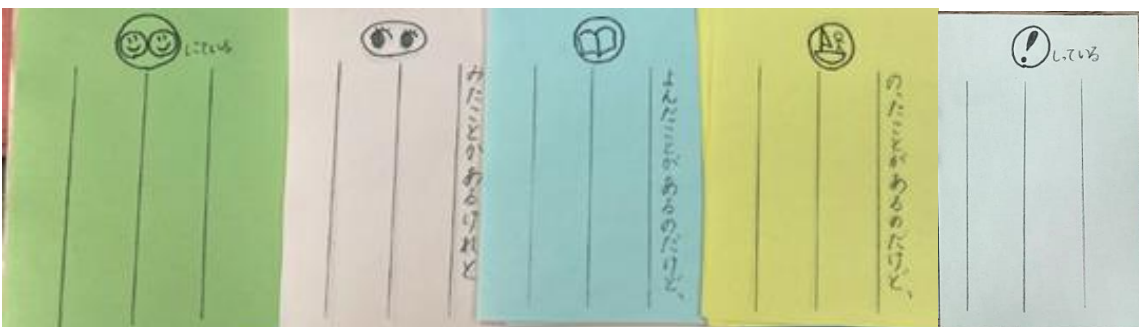
○めあて

いろいろな ふね

おすすめするりゆうを じぶんとつなげてかこう。

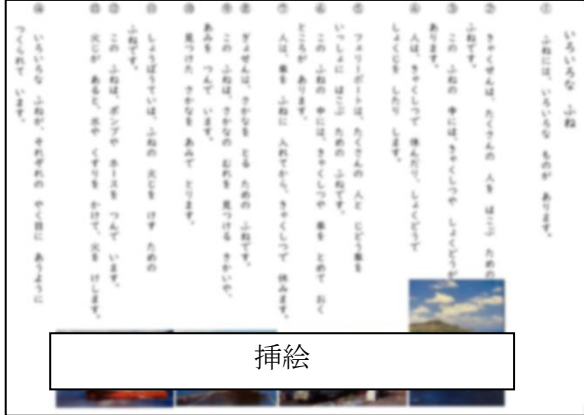
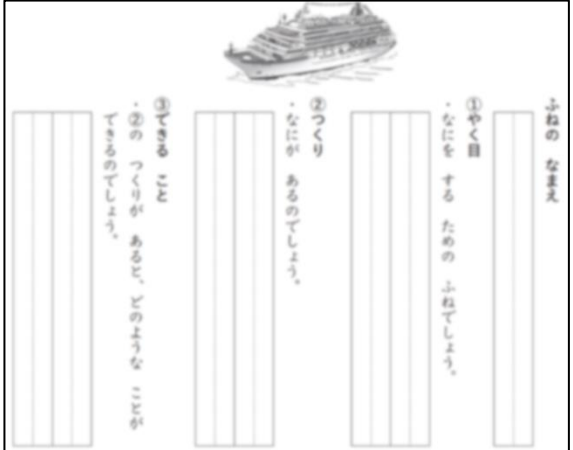
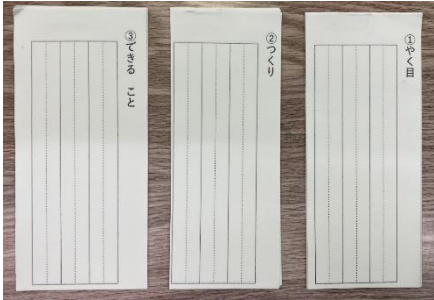
※ 追記 赤字部分について、本時では板書しなかったが、1番重要な視点なので、書き残すべきだったと考え、付け加えた。

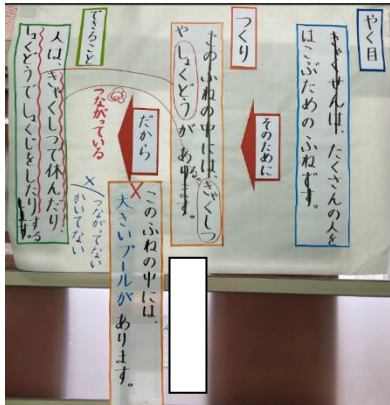
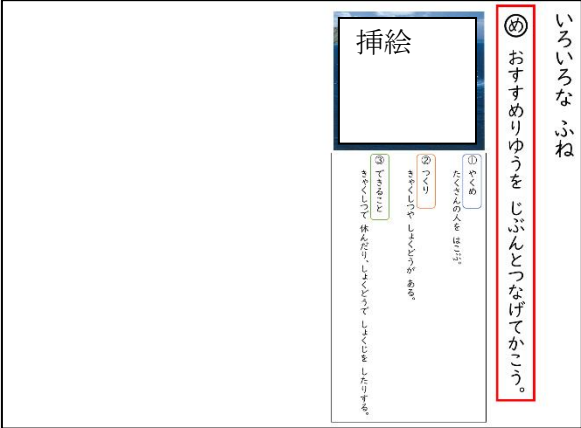
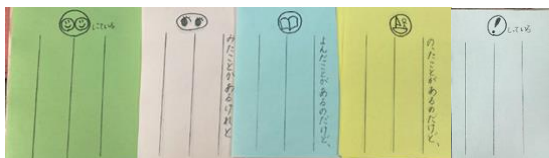
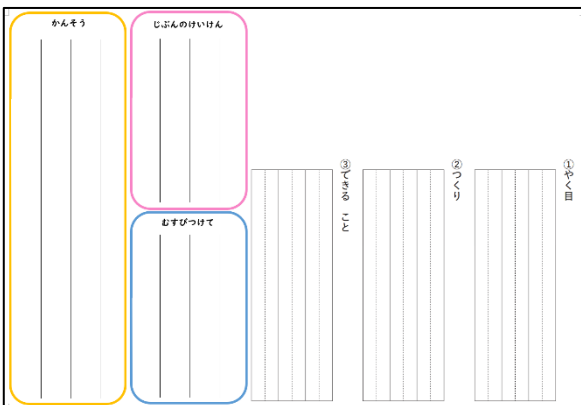
本時で使う自分の知識や経験とつなげる視点を書いた付箋

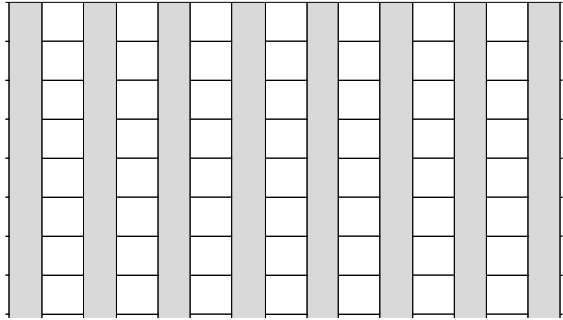


Ⅲ 指導の実際

1 単元の流れと使用した掲示物やワークシートについて

次	時	学 習 内 容 ★ <u>考えの形成の充実のためのポイント</u>	掲示物やワークシート
一	1	<p>★1 <u>教科書の扉のページを見たり、題名読みをしたりすることで、船についての知識や経験を引き出す。</u></p> <p>★2 <u>船について知っていることを付箋に書く。(※1)</u></p> <p>指導者が「のりものおすすめカード」を提示し、単元のゴールを共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書扉ページの写真（掛図） 扉ページのコピー （児童が付箋を貼るために） 付箋 指導者が作成した「のりものおすすめカード」
二	2	<p>教材文を読み、出てきた船はいくつ（種類）だったか数えることを通して、事例の数を把握する。</p> <p>その順序を把握することで、文章構成の大体をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全文シート（児童用と掲示用）  <p style="text-align: center;">挿絵</p>
	3	<p>どこからどこまでがそれぞれの船について説明してあるのかを捉えることによって、意味段落に分ける。</p>	
	4	<p>「やく目」「つくり」「できること」を確かめ、それぞれのふねには「やく目」があり、「やく目」に応じた「つくり」をしていることで「できること」があることを理解する。</p>	
	5	<p>★3 <u>第1時で書いた付箋(※1)を文章とつながるところへ貼ることで、自分自身の経験とつなぐ。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 全文シート ワークシート  <ul style="list-style-type: none"> 付箋 

		<p>・ 3つの関係性を把握するために使った短冊。(後に掲示物に作り替えた)</p> 
<p>6 7 8 9</p> <p>三</p>	<p>文章の内容と自分の経験を結び付けて、感想をもつ。 ★4 「見たことがある」「知っている」「乗ったことがある」などの視点から、自分の知識や体験とつなげることを経験する。</p>	<p>・ ワークシート (4つの事例ごとに)</p>  <p>・ 体験とつなげる視点を記した付箋</p>  <p>・ ワークシート</p> 

			<ul style="list-style-type: none"> ・ 付け加える等の作業をしやすくするための、行間を広くとった原稿用紙  <p>(一部抜粋)</p>
四	10 ・ 11	並行読書してきた乗り物について、カードにまとめ、「のりものおすすめカード」を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準備物などは、第3次で使用したものと同様
五	12 ・ 13	「のりものおすすめカード」を紹介し合う。これまでに学習したことと、自分の知識や経験を結び付けて、感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 付け加える等の作業をしやすくするための、行間を広くとった原稿用紙 (第9時で使用したものと同様)

2 指導上の工夫

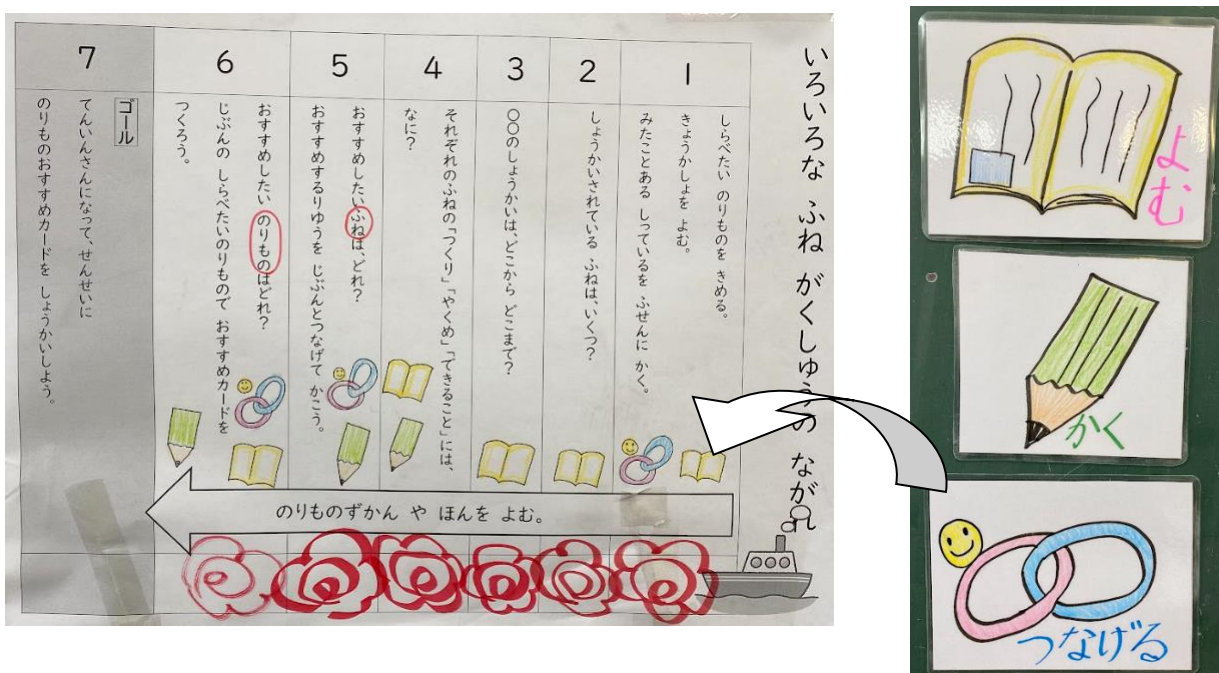
(1). 教材を自分事として読むために

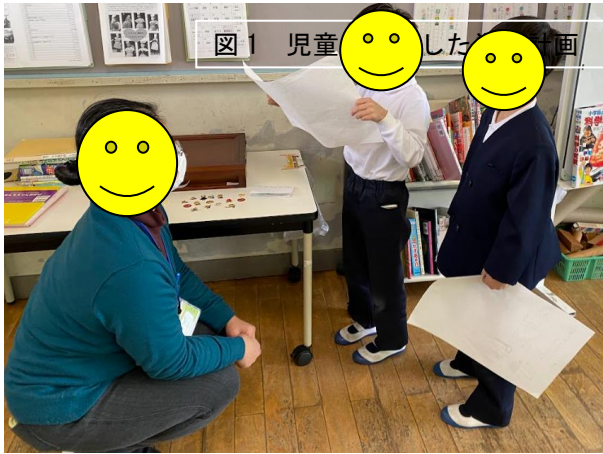
ア 教材と関わる目的をもつ (単元のゴールの明確化)

のりものおすすめカードを作り店員になって紹介をするという、児童にとってワクワクするような単元のゴールを設定することで、自分事として学ぶことができるようにした。

単元計画を児童の言葉で作成し、共有した。学級全員でゴールに向かうために教室掲示用と、個人で本時の学びを振り返るために個人用を作成した。単元計画を共有したことにより、見通しを持って学習に取り組むこともできた。(図1)

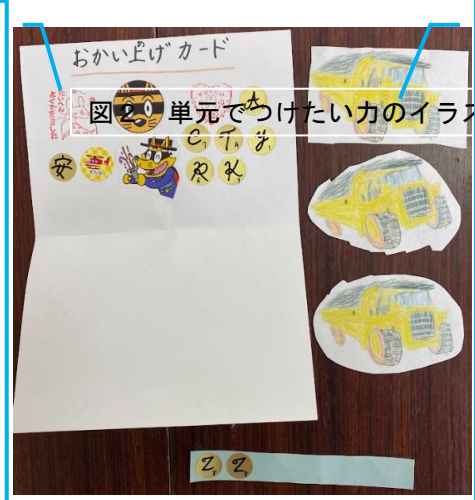
さらに、学習計画に「本時につけたい力」をイラストにして付け、加えて、黒板にも貼れるカードも作成した。そのカードと単元計画をもとに、授業の初めに子どもたちと「本時につけたい力」を共有して、授業を進めた。(図2)





単元末に「のりものおすすめカード」を先生方へ。

「お買い上げカード」代金の代わりに、シールやスタンプをもらう。



「のりものカード」買ってもらった商品としてあげるもの。

単元末に使用した「のりものカード」と「お買い上げカード」。これを用意することで、本当のお店屋さんになった気分。

イ 教材と自分自身を結び付ける場の設定

単元に入る前及び単元の導入時に、乗り物に関する絵本の考え聞かせや題名読みを行い、児童の知識や経験を引き出すことで、教材と自分自身をつなげやすくした。

考え聞かせをした絵本は、参考文献の一部記載している。

(2). 考えの形成を促すために

ア 学習過程の充実と考えの布石

考えの形成へ向かうために、それまでの学習過程で何を読み取っておくのかを明確にした単元構成にした。また、随所で自分の知識や経験とのつながりを問うことで、考えの布石となるようにした。以下、単元の中で、布石となるように計画を立て、実践した4時間の実践を紹介する。(どの時間に位置付けられているのかは、単元計画の★考えの形成充実のためのポイント参照)

第1次 第1時

★1 教科書の扉のページを見たり、題名読みをしたりすることで、船についての既有的知識や経験を引き出す

この単元は「ふねって知ってる？」の発問から始めた。

T:「ふねって知ってる？」

C:「知っとる！知っとる！」

C:「ぼく、乗ったことあるよ！」

などの答えが返ってきた。しかし、種類を問うと、

T:「どんな船知ってる？(種類)」

C:「分かりません。」

C:「あの、魚釣るふね。」

C:「なんか、ヨットみたいなの？」

など、船について詳しくは知らない、用途は知っているけれど名前が分からない、など、予想どおり、船についての知識は少ないことが分かった。

そこで教科書の扉のページが印刷してある掛図を使い、知識を引き出すこととした。(図3)

※1 教材文に書かれていることと同じ内容のものは、今後、文章とつなげるために黄色で板書している。

※2 児童の経験をさらに引き出したり、文章と実際の経験とをつなげたりするために「乗ったことがある。」と発言した児童を取り上げた。単元を通して同じマークを使用した。(詳しくは★4へ)

その後、指導者が作成した「のりものおすすめカード」を児童に紹介し、単元のゴールに行うのりものやさんを行った。この活動を楽しんだところで、単元のゴールを示した。児童は、ゴールに向けて意欲をもつことが出来た。

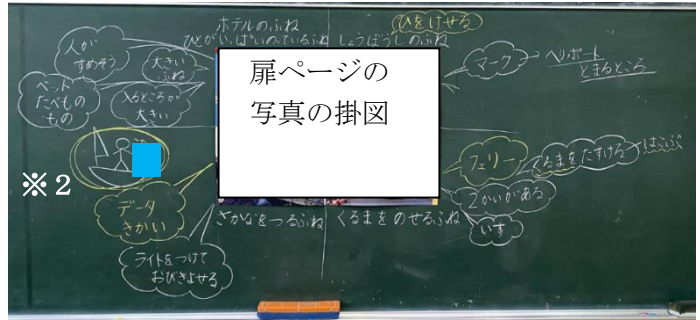


図3 第1時の板書

★2 船について知っていることを付箋に書く。

集団で4つの乗り物についての知識や経験を引き出した後に、個人で「知っていること(知識)」「乗ったことがある(経験)」「見たことがある(経験)」について、付箋に自由に記述させた。

一度集団で経験しているため、自身の持っている知識や経験を積極的に書くことができた。集団で知識や経験を話したことによって、こういうことを書けばいいということを理解し、集団では言えなかった児童も記述によって表現することができた。また、思い出して書いたり、先ほどよりも詳しく書いたりすることができた児童も見受けられた。

しかし、ここでも知識や経験を有していない児童は、先ほど集団で出た意見を写すこととなってしまった。

ここで書いた付箋は、指導者が別の付箋に書き写し、図3で示した掛図へ貼り、掲示した。付箋は、今後教材文の「やく目」「つくり」「できること」とつなげ、「自分の知識や経験は、教材文のこことつながっていたんだ。」と実感しやすくするために、色別にした。



第2次 4・5時

★3 第1時で書いた付箋(※1)を文章とつながる箇所へ貼ることで、自分自身の経験とつなぐ。

★2の学習活動において付箋に書いた児童の既存の知識や経験と教材文とを結び付ける活動を行った。最初は、付箋に書いた既存の知識や経験が文章のどの部分につながるのか、悩む児童が多かったが、繰り返すうちに、自分の力で教材文と付箋に書いたこと(知識や経験)をつなげることができていた。さらに、「やく目」「つくり」「できること」を色で分類していたことで、自分の既存の知識が「断片的に知っていた」ものから「やく目」「つくり」「できること」の

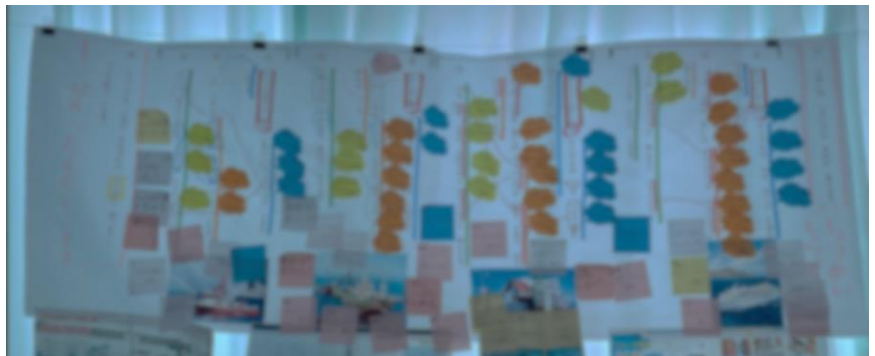


図4 付箋を貼った全文シート

どれに当たるのかを認識し、理解を深めることにつながった。

また、単元が進むに従い、乗り物に関する知識や経験そのものが乏しかった児童は、乗り物への興味・関心が喚起され、日常生活で観察したり自分で調べたりするようになった。文章中にある乗り物に関する直接的な知識や経験ではないために文章と知識や経験とを結び付けられなかつ

た児童は、関連する知識や経験を引き出しながら文章を読めるようになった。それによって、文章の内容の把握や精査・解釈の段階で、児童は新たな知識や経験を想起できるようになっており、それらを付箋に書き足していくことで、児童は文章を自身の知識や経験に基づいた解釈をすることにつながった。

第3次 6時

★4 「見たことがある」「知っている」「乗ったことがある」などの視点から、自分の知識や経験とつなげることを経験する。

★4の活動を行うにあたって、意識して文章の内容と自分の既存の知識や経験とをつなげたことがない低学年の児童にとっては難しいことが予想された。そこで、

1. 「見たことがある」「知っている」「乗ったことがある」「読んだことがある」4つの視点を示す
2. 文章と自分の知識や経験とつなげることを単元の中で多く経験する
上記2点を主に意識した。

イ 試行錯誤できる時間と環境の確保

指導観にも記したが、考えを形成するためには考えたけれど何か違う、書いたけれど上手くいかなかったという経験も必要であり、学習過程を行き来しながら、「おすすめカード」を作成させたいと考えていた。

そのために、付箋を多く利用した。付箋は、その部分だけ消さなくても修正する必要がある部分だけを書き直すことができるため、書字そのものに困難さを見せる児童も多い低学年には適した方法であると思う。

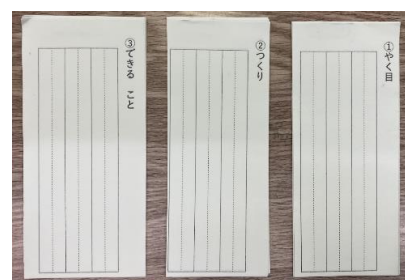


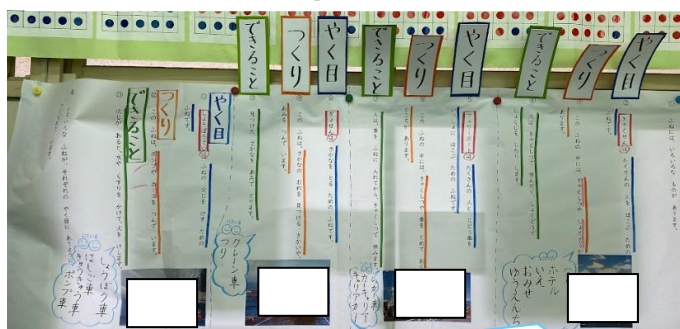
図5 「やく目・つくり・できること」が書ける付箋

(3) 全文シートの活用

内容と構造の把握をやすくするために、説明的な文章を扱う学習では、これまでも教材全文と挿絵を1枚のシートにまとめたものを活用してきた。この単元では、事例はいくつか把握するとき、主語に着目することのほかに、文中の言葉のつながりに着目することを学んだ。例えば、漁船の紹介は、8～10段落であり、11段落からは別の事例の紹介である。そのことの手がかりは、11段落は「しょうぼうていは・・・」と主語が変わっている他、10段落と11段落では、言葉のつながりがないことに気付いた。このことは、全文を俯瞰できるから把握しやすい。全文シートは、児童用のものと掲示用のものを用意し、どちらも授業で使用している。(図6・図7)

児童用全文シートの右に貼ってあるシールは、授業中に音読した回数である。これによって、授業中に音読することへの意欲付けと達成感を引き出している。(図7)

図6 「やく目・つくり・できること」を記入した掲示用全文シート



自分が知っているものと「似ているもの」を考えると、さらに自分自身とつながる。

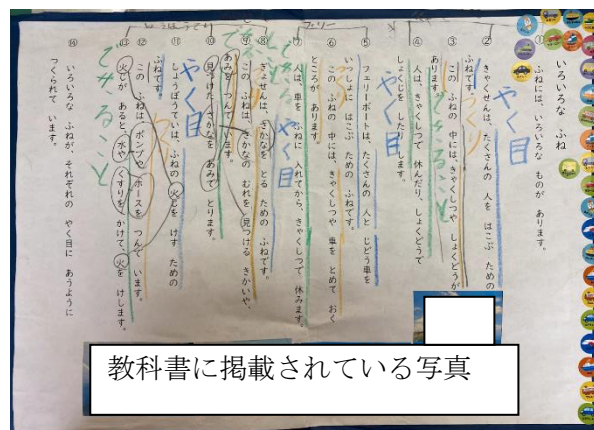


図7 児童用全文シート

3 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

つまずき1 「知識や経験が乏しい、個人差がある」

第1時で前述のように、乗り物についての知識や経験が乏しいことが明らかとなった。また、予想していたように、山間部にある学校の児童であるため、船を見たり乗ったりしたことのある児童がほとんどいなかった。また、見たことはあってもそれが直接の経験でなく、動画で見たことがある児童が多かった。このことから、文章と自分の経験をつなげることが難しいと感じた。

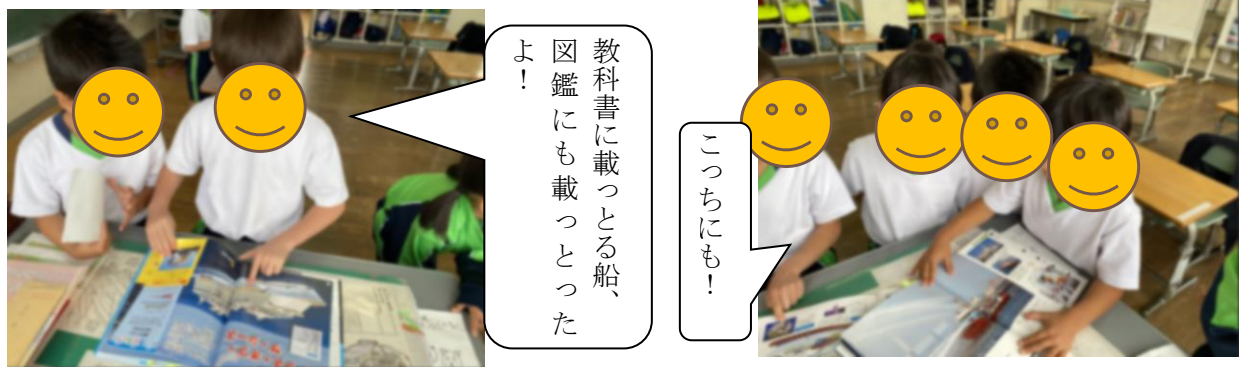
手立て1 「①乗り物の本コーナーの設置 ②社会見学で乗り物について知る機会の設定」

①乗り物の本コーナーの設置

学校司書に依頼し、学級に「のりものの本コーナー」を作った。(図8) このことにより、単元に入る前から意識付けをすることができた。単元を進めていくうちに、休憩時間に図鑑を見ていた児童がページを開いて「先生！教科書に載っとるの見付けたよ！」と目を輝かせることが増えてきた。それを皮切りに、休憩時間や読書の時間に、「のりものの本コーナー」の中から、教材文に事例として挙げられている船を見つける児童が増えた。意欲を高めたり、知識を深めたりできるよう、見付けたページをコピーし、全文シート(図4)の下と教室後方のホワイトボードへ貼っていた。更には、自分の家から図鑑を持ってきて紹介する児童もいた。このような手立てを講じることにより、知識や経験の差が埋まっていった。載っているページから、教材文には書かれていなかった内容を見付け、話している様子も見られた。



図8 「のりものの本コーナー」



②社会見学で乗り物について知る機会の設定

社会見学では消防署と給食センターを訪れた。施設の方々と連携をし、救急車や消防車、給食を運ぶトラックを見たり、実際に乗ったりさせてもらった。これによって、乗り物についての知識や経験が乏しかった児童も、実感を伴った知識や経験として蓄えることができた。さらには、学んだことを「つくり・やく目・できること」を意識した掲示物を指導者が作成し、教室後方に掲示した。(図9)

また、単元末の「のりものおすすめカード」をつくる際にも、実際に見学先で見たり、乗ったりした乗り物を選ぶ児童もおり、経験とつなぐ際に容易に書くことが出来た。



図9 見学したことをもとにした掲示物

つまずき2 「選ぶ乗り物と自分の経験が繋がらない」

並行読書から「のりものずかん」に載せたい乗り物を決める際、自分の好みやかつこよさ、憧れ等の観点で選ぶ児童が多かった。しかし、自身は実際に見たことや乗ったことがないため、経験とつなぐことが難しかった。同様に、児童が見たことがあると言った乗り物も、実際に見たことがあるものでなく、動画によるものが多かった。これも、実体験でないので、経験とつなぐことが難しいと感じた。

手立て2 「似ていると思ったものをつなげる」

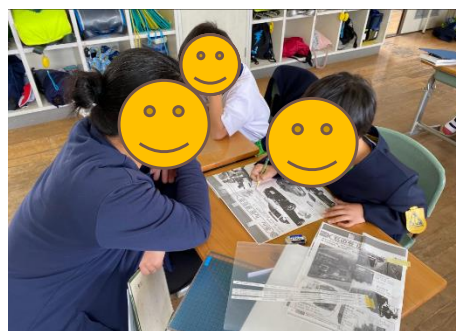
その乗り物に対する経験と直接つなぐのではなく、その乗り物と似ていると思ったものをつなげる。例えば、児童1は、ピザの移動販売車を調べることに決めたが、それを本と動画でしか見たことがなかった。そこで、自分の身近なもので似ていると思ったものをつなげることを提案した。すると、自宅にあるピザ窯と似ていることに気付き、ピザの移動販売車とピザ窯の共通点や相違点を書くことが出来た。

つまずき3 「自分で調べた乗り物で内容の理解→精査・解釈の段階を踏むことが難しい」

自分で選んだ乗り物を図鑑や本で調べた際に、並行読書してきたものの内容理解は十分だと思っていた。しかし実際には、「やく目」「つくり」「できること」を選び出すことはできたのだが、教科書教材ほどの読み込みはしていないために、自分事として読むことはできてなかったように感じた。このことが、自分の調べた乗り物を自分とつなぐことの難しさの1つとなっていた。

手立て3 「学校司書とのチーム・ティーチング」

学校司書には、図書に関する専門性を生かし、単元の必要な場面でチーム・ティーチングの形態で授業に入ってもらった。具体的には、第5時で「やく目」「つくり」「できること」を選び出す際に、選んだ本には記載がないものがあり、手が止まっていた児童がいた。その児童には、他の本にも選んだ乗り物についての説明があるため、表紙や目次からどの本に書いてあるのか探す方法を指導してもらった。また、第10・11時において、ダンプカーの「つくり」として「丈夫な車体で厳しい悪路にも立ち向かいます。」という



記述を見付けていたが、解釈には至っていない児童に対し、「なんで丈夫なんかね？」と問いかけてもらおうと、児童は少し考えた後に「だって、土砂って重いんよね。じゃけえ、丈夫じゃないと壊れるんよ。」と自分の言葉で答えることができた。このように、本に書いていることを選び出す活動をした後に、図書の専門性を生かした問いかけをしてもらうことにより、一段踏み込んだ思考ができた。そのことが「精査・解釈」の段階へ近づくことが出来た近因であると感じた。

つまづき4 「感想をもつことが難しい」

自分の経験と結びつけるところまでできたが、感想をもつことは難しかった。具体的には、何を聞かれていて、何を書いたらいいのか、イメージすることが難しいようだった。

手立て4 「①行間の広い原稿用紙に下書きを書く ②選択肢を提示する ③友達の感想を聞く」

① 行間を広くとった原稿用紙に下書きを書く (図10)

感想をもつことは、必ずしも記述で表現しなくてもよい。そのため、自分の持った感想を記述で表現させたのちに、個別に思いを聞き取った。そうすることで、記述の文章では表現できなかったことを、教師との会話で引き出すことができた。聞き取ったことを、行間に書き足し、清書する際に付け加えるよう指導した。

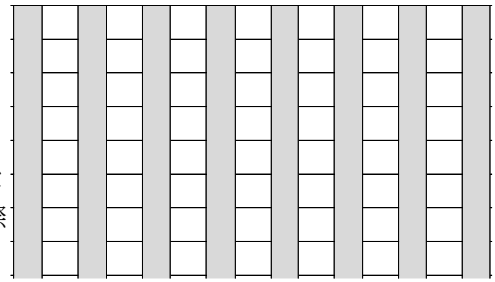


図10 付け加える等の作業をしやすくするための、行間を広くとった原稿用紙

② 選択肢を提示する

「感想」「思ったこと」は、児童にとって抽象的である。具体的にどのようなことを書いたらよいか、見本を示したり、視点を示したりして選択肢を与えた。例えば、「この乗り物を調べてみて、すごいと思った？かっこいいと思った？乗ってみたいと思った？」などである。そこから、文章の内容に対する思いを膨らませた。

③ 友達の感想を聞く

感想を書いている途中に、友達の感想を聞く場を設定した。そうすることで、書けなかった児童が「こういうことを書いたらいいんだ」と思いつき、自分の考えも取り入れながら書くことができた。且つ、自分の言葉で感想を書いていた児童も、友達の意見を聞くことによって、新たな視点を見付け、自分の感想に書き足すことができた。

IV 評価の実際

1 評価の具体

(1) 「知識・技能」の評価

【知識・技能】事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(第4・5時)

ここでは、それぞれのふねには「やく目」があり、「やく目」に応じた「つくり」をしていることで「できること」があることを理解できるように指導した。具体的には、「もしも、客船のつくり」に『この船の中には大きいプールがあります』と書いてあったら？」と発問し、3つの文のつながりを考えさせた。(図11) その上で、教材文の事例から「やく目」「つくり」「できること」を適切に選び出した後に、その3つの事柄の関係性(やく目に応じたつくりがあり、それによってできることがあること)に気づき、ワークシートに記述したり、音声表現したりしている児童を「おおむね満足できる」状況(B)とした。

一方、3つの事柄の関係性に気付いたり、その関係性を捉えたりすることができなかった児童を「努力を要する」状況(C)とした。そのような児童に対しては、選び出した文章を

「やく目」と「つくり」の間に「そのために」、「つくり」と「できること」の間に「だから」を入れて一緒に音読したり、指導者が音読したりすることで文章の「やく目」「つくり」「できること」の因果関係を捉えられるようにした。このように、つながりを意識させることによって、文と文の関係性について理解できるよう指導した。

なお、文のつながりに気付いている、または、自ら3つの関係性を捉えることが出来た児童を「十

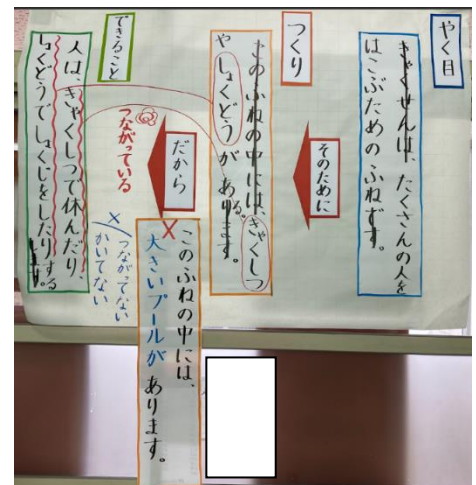


図11 板書で使用した短冊を掲示物に

分満足できる」状況（A）とした。また、第4・5時では「おおむね満足できる」状況（B）と判断した児童も、第10・11時で3つの事柄の関係性を意識して選び出している児童についても「十分満足できる」状況（A）と評価をし直した。

（2）．「思考・判断・表現」の評価

【思考・判断・表現①】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。（第10・11時）

【思考・判断・表現②】「読むこと」において、文章の内容と自分の経験を結び付けて、感想をもっている。（第6・7・8・9時）

【思考・判断・表現①】では、並行読書してきたものから「やく目」「つくり」「できること」を選び出したワークシートの記述内容や、それらについて音声表現した内容から評価した。

第10・11時までには、教材文に出てくる4つの乗り物の「やく目」「つくり」「できること」（＝「のりものずかん」を作成するための重要な語や文）を考えて選び出す活動で身に付けた力を用い、図鑑や絵本から選んだ乗り物の「やく目」「つくり」「できること」を選び出す活動を行った。その結果、自分の選んだ乗り物について図鑑や本から「つくり」「やく目」「できること」を適切に選び出して、文章に線を引いたり、音声表現したりしたことをワークシートに記述している児童を「おおむね満足できる」状況（B）とした。

一方、並行読書してきた図鑑や絵本から「やく目」「つくり」「できること」を、適切に選び出せなかった児童は「努力を要する」状況（C）とした。そのような児童には、1つずつ選び出すよう助言した。また、言葉を言い換えることも行った。具体的には「まず、やく目から選んでごらん。やく目は仕事と一緒にだよ。」と促し、それが出来たら「つぎは、つくりを選ぼうよ。（やく目の内容を読み）そのためどんな機械や物があるのか探しておいで。」と具体的な指示を出した。

なお、並行読書してきた図鑑や絵本から「やく目」「つくり」「できること」について、適切に選び出し、さらに他の本からも情報を取り入れようとしている児童、文のつながりを考え、文を直したり言葉を付け足したりしている児童は、「十分満足できる」状況（A）とした。

【思考・判断・表現②】では、教材文の4つの事例からおすすめしたい船を選び、文章の内容と自分の経験をつなげて感想を記述している内容から評価した。

ここでは、文章の内容と自分の経験をつなぐときに「見たことがある」「知っている」「○○で読んだことがある」「乗ったことがある」「（自分の知っている）○○と似ている」の視点を手立てに、自分の経験を思い出し、それらは教材文のどことつながるのか、付箋と文章を線で結びながら考えることを指導した。その結果、付箋に自分の知識や経験を記述し、それを文章とつなぎ、それらを結び付け、感想をもつことが出来た児童は、「おおむね満足できる」状況（B）とした。

一方、文章の内容と自分の経験を結び付けることはできたが解釈の段階で止まり、感想をもつことができなかった児童は、「努力を要する」状況（C）とした。そのような児童には、（2）つまりきと手立ての④で前述したように、選択肢を与えたり、友達の感想を聞いたりするなどの指導を行った。

なお、自分の知識や経験と結び付ける際に、自分の知っている事柄と比較したり、類推したりしながら、調べている乗り物についてより深い考えを記述できた児童は、「十分満足できる」状況（A）とした。

（3）．「主体的に学習に取り組む態度」の評価

【主体的に学習に取り組む態度】進んで、文章の内容と自分の経験を結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、「のりものおすすめカード」にまとめようとしている。（第10・11時）

【主体的に学習に取り組む態度】については、図鑑や絵本の説明（文章）の内容と自分の経験を結

び付けた上で、どの知識や経験と結び付けるのがよいか考えながら選んでいる様子や、結び付けた上で感想を記述している様子、加えて、相手に伝えるために分かりやすくワークシートにまとめようとしている様子から評価した。

ここでは、「読み手に伝えたい」「自分の経験したことのこれがすごい」「だからおすすめしたい」という思いを実現させるため、一人一人の児童が友達や指導者との関わりの中で自分の学びを見つめて、それをより良くするための試行錯誤ができるようにした。例えば、知識や経験を複数書いた付箋の中からどれが良いのか考えたり、結び付けた感想をよりよく書くために友達や指導者と相談したりしている様子が確認できた児童を「おおむね満足できる」状況（B）とした。

一方、「のりものおすすめカード」を作る際に、より良くしようと試行錯誤する様子が確認できなかった児童は「努力を要する」状況（C）とした。

なお、学習課題を強く意識し、知識や経験を複数書いた付箋の中からどれが1番良いのか試行錯誤したり、友達の意見も取り入れてさらによくしようとしたりしている様子が確認できた児童を「十分満足できる」状況（A）とした。

2 児童の評価

(1) 「知識・技能」の評価

「十分満足できる」状況（A）と評価した児童の数は2人、「おおむね満足できる」状況（B）と評価した児童の数は6人、「努力を要する」状況（C）と評価した児童はいなかった。

まず、集団で1つの事例を挙げ「やく目」「つくり」「できること」を確認し、見付ける手立てとその関係性を確かめるために「そのために」「だから」を入れて読むことを確認した。すると、児童2は、残りの事例について、自ら教材文から「やく目」「つくり」「できること」を見付けて線を引き、ワークシートに記述することが出来た。そして、その関係性を確かめ、因果関係が成り立っていることも確認することが出来たので、「十分満足できる」状況（A）と評価した。（図12）

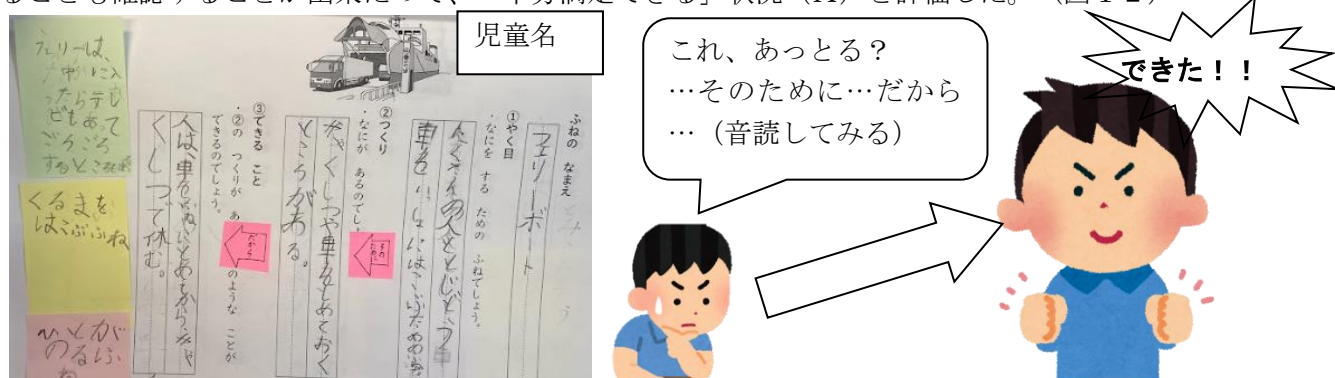


図12 児童2のワークシート

児童3は、第4・5時間目に3つの事柄の関係性に気付いたり、その関係性を捉えたりすることができたものもあれば、できなかったものもあり、この段階での評価は「努力を要する」状況（C）としていた（図13）。第10・11時には、2つの乗り物について調べ、「やく目」「つくり」「できること」を選び出した。図11のワークシートは、1つ目の乗り物に選んだワッフルの移動販売車について調べている。その時点では、「やく目」「つくり」「できること」の意味や3つの関係性について理解していない。そう判断したため、一緒に考えたり、修正したりした（図14）。すると、理解が深まり、2つ目の乗り物に選んだピザの移動販売者については、自分の力で選び出し、その関係性に気付くことができたので、「おおむね満足できる」状況（B）と評価し直した（図15）。

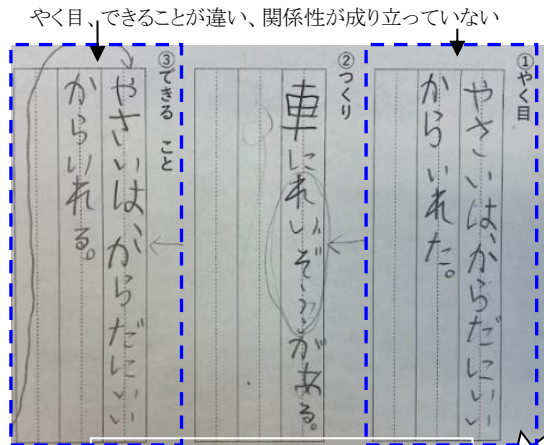


図 13 児童3のワークシート

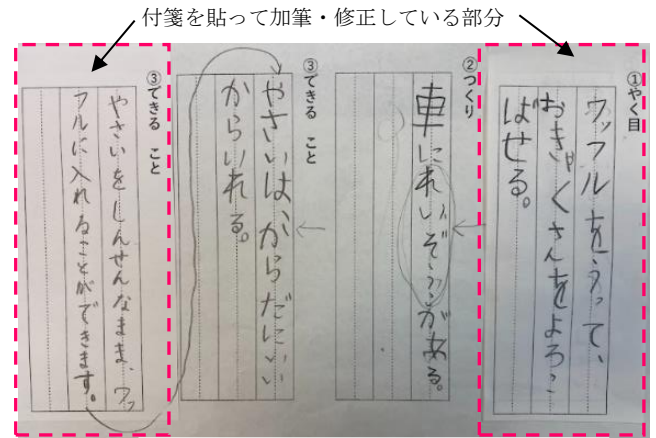


図 14 指導者と修正したワークシート

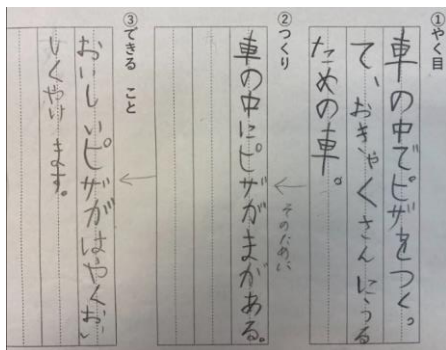


図 15 児童3が書いた2つ目の乗り物についての記述



読んでみたんだけど、なんかつながりません…！
どうやってなおしたらいいのかな？
(図 13)



先生、書くことが分かったよ！
一人でできた！！ (図 15)

(2) 「思考・判断・表現①」の評価

児童4は、自分で選んだ乗り物について、図鑑や絵本から「やく目」「つくり」「できること」を適切に選び出した。具体的には、フォークリフトについて調べる際には、図鑑から言葉を選び出し、図 16 のように、ワークシートへ記述した。この内容から、文章の中の重要な語や文を考えて選び出していると判断し、「おおむね満足できる」状況 (B) と評価した。

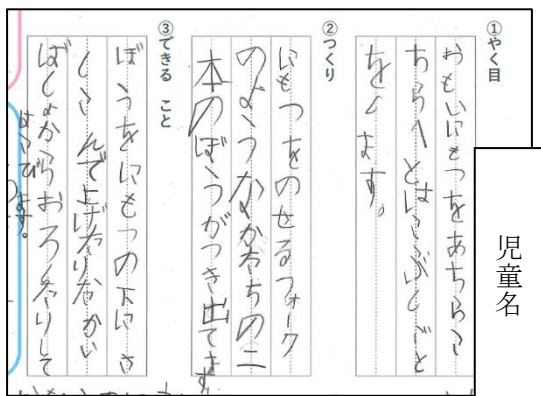


図 16 児童4が書いたワークシートの記述

あ！
本のここに書いてある説明が「やく目」だと思う！！
「つくり」はこれかな？



児童5は、言葉を選び出すだけでなく、その言葉選びにこだわった。例えば、図鑑から選び出す際には、「やく目、つくり、できることがいっぱい書いてあるけど、どれがいいかなあ。」と発言していた。やく目、つくりを適切に選び出した後、「できること」について本に書いてある言葉で分かりやすいのか立ち止まって考える姿が見られた。本には「できること：風や水しぶきを受けることができます。」と書かれていたものに、自分なりに言葉を足して（図17）のように仕上げた。これは、言葉による見方・考え方がよりよく働いていると判断し、「十分満足できる」状況（A）と評価した。

図17 児童5が書いたワークシートの記述

「できること」って、これだけでいいのかな？

よく分かるように、言葉を付け足してみたよ！

①やく目
どうろや水の上をはして、おきやくさんをはたのしませるための車です。

②つくり
まどにガラスがありません。

③できること
まどにガラスがないのはかせや水しぶきをうけるから、おきやくさんをよるこばせ

本に書いてあった部分

児童5が付け加えた部分

(3) . 「思考・判断・表現②」の評価

児童6は、図18のワークシートでは、自分の経験を付箋に書いたのちに、それを文章や挿絵のつながる箇所と線で結んでいる。例えば、「大きい網があるのを知っている」と書いた付箋は、文章中の「網」について書かれた箇所とつながると判断し、線で結んでいる。「電気があるのを知っている」と書いた付箋は、文章でなく写真と結んでいる理由を聞くと、「夜釣りをするのに電気で照らして魚をおびき寄せよ。」と話した。このことから、魚をとることと結び付けていると判断できる。さらに、児童6は、はじめ自分の経験に「国語の教科書で読んだことがある」と記述していたが、本時(第6時)の内容を受けて、その付箋は文章と結びつかないと判断した。また、友達と交流する場面でも、友達の記述内容に、その点をアドバイスしていたため、結び付けることに関しては、「十分満足できる」状況(A)とした。その感想について児童は、図18の原稿用紙に文章と自分の知識や経験と結び付けた感想を記述していた。おすすめする船について、乗せてある道具に着目し、それらがどれも魚を捕るために大切な道具だということを類推的に解釈し、その感想をもっていると判断したため「十分満足できる」状況(A)と評価した。

図19 児童6の感想

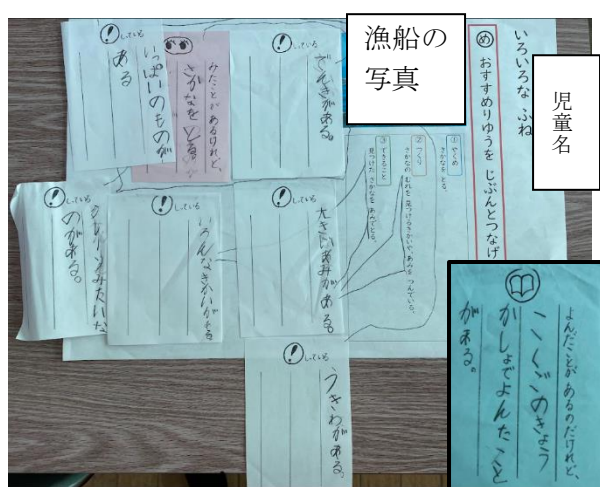
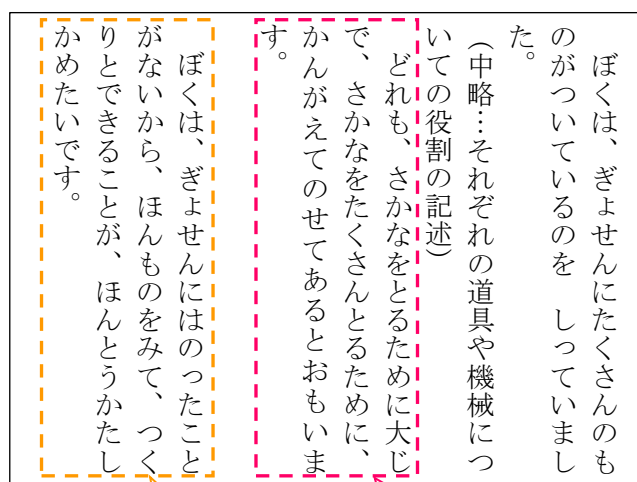


図18 児童6のワークシート

児童がつながっていないと判断し、外した付箋



感想の部分

類推的に解釈していると判断した部分

児童7は、本時(第6時)では、自分の知識や経験を書いた付箋と教材文をつなぐことが出来なかった(図20)。具体的には、「夢で見たことがある」と書いたことに対して、友達から「これ、ちがうんじゃない?」とアドバイスをもらったが、「だって、夢で見たもん。」と発言していたことから、なぜつながらないのか理解できていないと判断し、「努力を要する」状況(C)とした。しかし、次の時間に、集団で「前時の『海が綺麗でした』の付箋はなぜ外したのか」をもう一度議論し、文章と付箋を線で結びながら、つながらなかった理由を明らかにしていくと、次第に文章と自分の経験をつなぐことを理解していった。再度、自分の付箋を見直す時間には、「あ、これ違うかも。」と気づき、「夢で見たことある」「中に椅子もあるし、自動販売機もある」の2つの付箋を外した。よって、文章と自分の知識や経験をつなぐことに関しては、評価を「おおむね満足できる」状況(B)とし直した。(図21・図22)

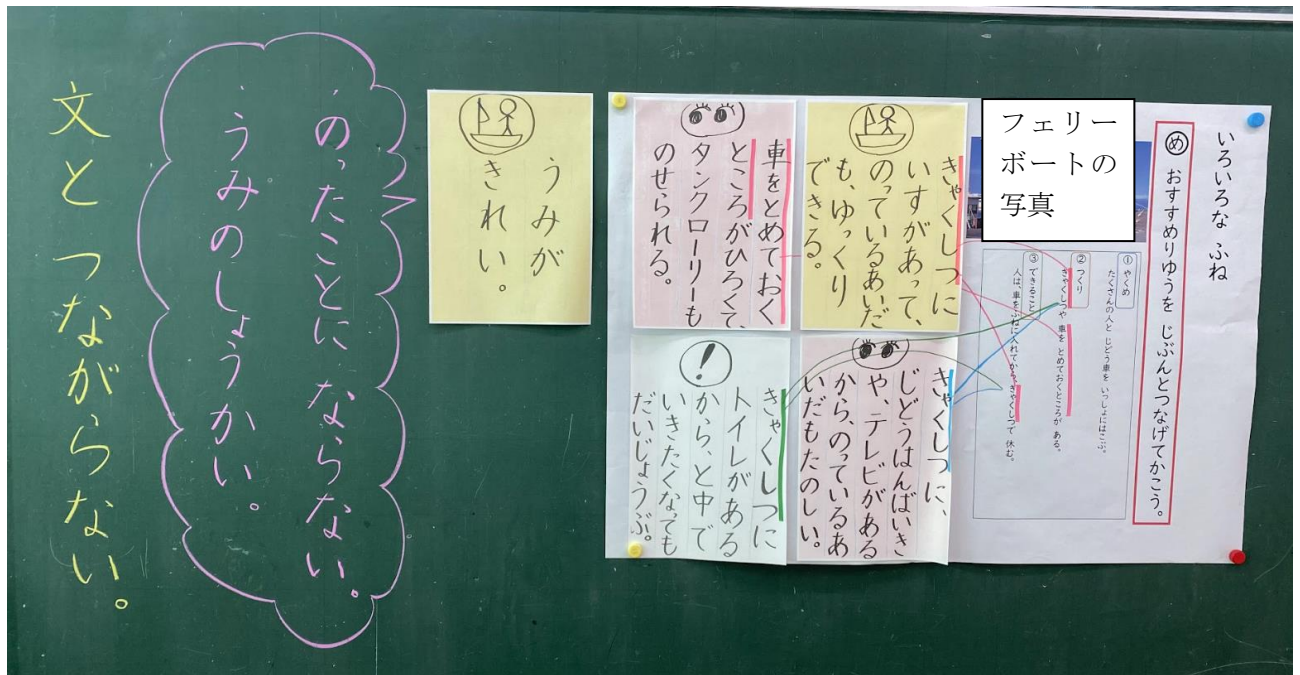


図 20 第7時の板書

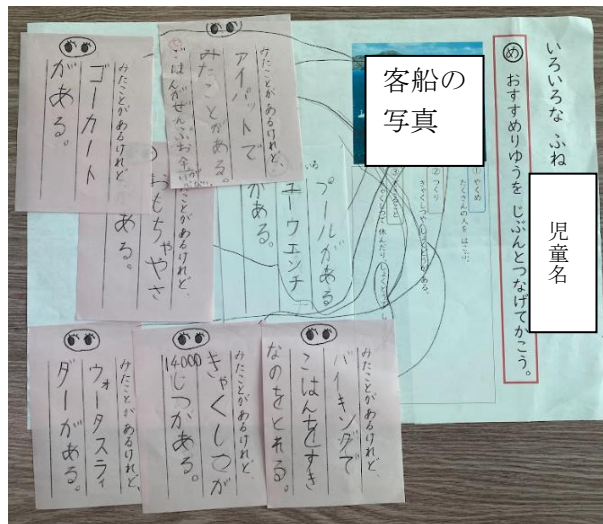


図 21 児童7が第7時で自分の経験と文章をつないだワークシート

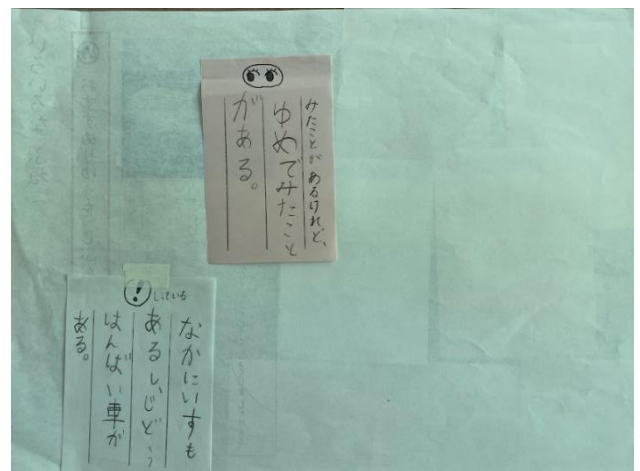


図 22 児童7が第7時で外した付箋

さらに、「のりものおすすめシート」を作る際に、感想をもつことに関しては、ピザの移動販売車は自分の家のピザ窯と似ていると判断した上で、共通点や相違点を考えたり、調べて気になったりしたことなどを書いている(図19)。共通点や相違点を考える際には、ベン図を使用した。記述の内容から、「十分満足できる」状況(A)と評価した。よって、児童7は、【思考・判断・表現②】は「十分満足できる」状況(A)と評価した。

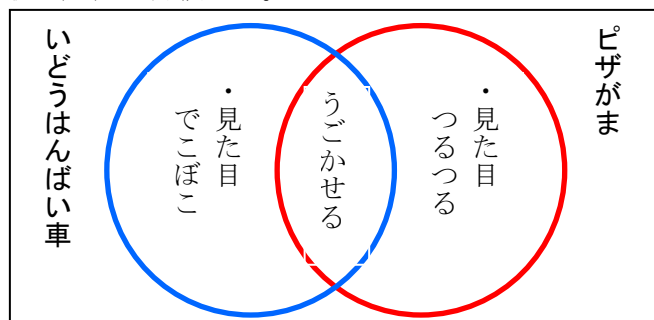


図 23 児童8のワークシート

V 成果と課題

1 成果

(1) 「つながり」を意識した指導

「文章と自分自身の知識や経験を結び付け、感想をもつ」ことが目標だったため、結び付ける＝**つながり**を意識した単元づくりを行った。指導観では布石という言葉を使い、単元計画では「考えの形成のポイント」という言葉を使ったが、つまり、この単元で学習したこととのつながりがとても大切だと分かった。また、文章を読み理解するときにも、つながりを意識することが出来た。例えば、【知識・技能】で3つの事柄の関係性を理解するときにも、この3つはつながっていないと関係性が成り立たないことが分かる。つながりを指導者が意識して授業をすることで子どもたちから「つながってる！」という言葉が自然と出てくる。

さらには、1月に学習した「子どもをまもるどうぶつたち」の単元においてもこの学習を生かしている様子が見られた。図鑑から教科書に載っている生き物が説明されている箇所を見付けて、「先生！教科書にのっとるの見つけたよ！」「○○って書いてあるよ！」と、教材文と図鑑をつなげて読む姿が見られる。

(2) 指導事項を子供の姿で具体化する大切さ

学習指導要領は読み込んできたつもりだったが、今回の単元を作る上で、更に学習指導要領に記された内容を更に噛み砕いて解釈する必要があると思った。特に、どんな力を付けることを求められているのかを解釈し、それはどのような姿なのかを具体的に持つておくことが大切であると実感した。どんな力を付けるのが明確になっていたら、手立ても講じやすい。

(3) 考え聞かせの効果

考え聞かせを継続して行うことで、小さく書いてある注にも目を向けることのできる児童が増えた。それが、乗り物を調べる際に、細かいところまで読み込むことも意識できていたので、情報を探したり、選び出したりする時に、読み取ることができず「書いてありません。」という児童がほとんどいなかった。

(4) 具体的に感想をもつことができるように

児童観で前述したように「○○がすごかった。」など、表面的な感想で終わってしまう児童が多かった。しかし、この単元で感想を書く視点や、詳しく書くとはどういうことなのか学習したことにより、具体的に表現できる児童が増加した。

2 課題

(1) 時数の調整と年間を見通した時数の割り当て方（カリキュラムデザイン）

考えの形成をするためには、「内容と構造の把握」「精査・解釈」のどの段階も大切であることは先に述べた。また、今回は初めて「考えの形成」を指導したことから、結び付ける段階と感想をもつ段階とで2時間に分けて、丁寧に指導した。よって、年間指導計画に記された単元の時数を超過する計画となり、実際に指導すると更に2時間多くなってしまった。

(改善策)

このことから、年間を見通した教材研究をし、時数の調整が必要だと感じた。実際に、10月末にこの単元の授業研究をすることが6月には分かっていたので、2学期単元の時数の調整は行っていた。これは、年度当初に全ての教材研究を行い、系統性を把握していたので、単元に軽重を付けることができていたからだと考える。また、系統的に読みを積み重ねることで、子どもたちの読む力も高まっていたことも、時数の調整に生きていた。

加えて、カリキュラムもデザインしていくことが重要である。例えば、今回の例は「社会見学」で乗り物について学べるよう仕組んだ。

(2) . 調べる乗り物の選び方

自分の憧れの乗り物を選ぶ児童が多かったため、自分の経験とつなぐことが難しかった。

(改善策)

選ぶときに、「実際に乗ったことがある」「実際に見たことがある」中から選ぶことを推奨すればよかったと感じた。また、実体験なのか、そうでないのか、経験とつなぐ付箋を分けてもよい。例えば、「見たことがある」を「本物を見たことがある」と「動画でみたことがある」に分ける。すると、自分の知識や経験とつなぎ感想をもつ際に、実体験の方が感想をもちやすいことに気付くであろう。

(3) . 選書の仕方

学校司書には、並行読書として様々な難しさの本を選んでもらった。それを子どもが選ぶ際に、どの本を選ぶのが重要であった。例えば、本が難しくて内容が理解できなかつたり、逆に「やく目・つくり・できること」がすでに書いてあつたりして簡単すぎた例もあつた。また、教科書に準拠したつくりになっており、すでに分かりやすく「やく目・つくり・できること」をまとめてあるページがある本もあつた。それでは、重要な語句を選び出す学習にはならない。

(改善策)

そこで本を変えたり、調べたい乗り物を変えたりすることも教師から児童に提案した。また、児童に示す本のページを「やく目」「つくり」「できること」をまとめていないものにするなど、工夫した。

VI 単元を終えて

(1) . 基礎・基本の徹底

考えの形成をする上で、その土台となる力が重要になると単元を通してひしひしと感じた。例えば、この学年は絵日記や日記を毎日書いていることから、書くことに全く抵抗がない。読むことにおいても、当初より場面や段落ごとに読むのではなく「全体を読むこと」を学習している。更には、音読で全文をくり返し読んできたことから、音読する力も付いており、どの単元でも最終的には全員が暗唱できるほどである。このような力が付いていたことで、考えの形成という難しいことでも、全員が学びに向かうことが出来た。これからも、常に基礎・基本を大切に指導していきたい。

(2) . 子どもの力を信じる

本研修のテーマが、小学校低学年「読むこと」説明的な文章における「考えの形成」であると知った際、非常に難しいと感じた。研修を受講し、学習指導要領において求められている資質・能力の具体を子供の姿で具体化したことにより、更に1年生には難題だと思った。そのことから、国語科の学習指導要領は2年間で付ける力を示してあるので、「1年生はどこまでに制限するか」という思考に陥っていた。

しかし、今、単元を振り返ってみると、子どもたちは日々の学びを非常に愉しんでくれた。更に、ここまで考えたことが表現できるのかと驚いた。

無理だと決めつけて出来ることと出来ないことの境界線を指導者が引いてしまうのではなく、「付きたい力は何なのか？」そのためには「どういう手立てが必要なのか？」ということを考え、挑んでいく姿勢が大切だと感じた。今後も子どもたちの可能性を信じ、様々なことへ挑んでいきたい。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
「のりものずかん」	編著：成美堂出版編集部	成美堂出版
「のりものくらべ ① はたらく車」	監修：相馬仁/写真：元浦年康	偕成社
「のりものくらべ ② 暮らしをまもる車」	監修：相馬仁/写真：元浦年康	偕成社
「のりものくらべ ③ 電車やてつ道」	監修：相馬仁/写真：元浦年康	偕成社
「のりものくらべ ④ いろいろな船」	監修：相馬仁/写真：元浦年康	偕成社
「のりものくらべ ⑤ ひこうきや うちゅう船」	監修：相馬仁/写真：元浦年康	偕成社
「はじめてのずかん はたらくくるま」	監修：小賀野実	高橋書店
「じどう車ずかんをつくろう ① きゅうきゅう車・パトロールカー・しょうぼう車」	監修：岡田博元（お茶の水女子大学付属小学校）	ポプラ社
「じどう車ずかんをつくろう ② タクシー・すいりくりょうようバス・ろせんバス」	監修：岡田博元（お茶の水女子大学付属小学校）	ポプラ社
「じどう車ずかんをつくろう ③ クレーン車・ダンプカー・ショベルカー」	監修：岡田博元（お茶の水女子大学付属小学校）	ポプラ社
「じどう車ずかんをつくろう ④ ろめんせいそう車・高所さぎょう車・ごみしゅうしゅう車」	監修：岡田博元（お茶の水女子大学付属小学校）	ポプラ社
「じどう車ずかんをつくろう ⑤ キャリアカー・たくはい車・タンクローリー」	監修：岡田博元（お茶の水女子大学付属小学校）	ポプラ社
「じどう車ずかんをつくろう ⑥ いどうとしょかん・きしん車・クレープはんばい車」	監修：岡田博元（お茶の水女子大学付属小学校）	ポプラ社
「はたらくじどう車くらべ① バスとトラック」	国土社編集部	国土社
「21世紀幼稚園百科 新版はたらくのりもの」	監修：いのうえこーいち（乗り物研究家）/写真フォト・リサーチ・スタジオ夢銀河・PANA 通信社	小学館
「はたらく船大図鑑 ① 人をはこぶ船」	監修：池田良穂（大阪府立大学 21世紀科学研究機構 特認教授）	汐文社
「はたらく船大図鑑 ② ものをはこぶ船」	監修：池田良穂（大阪府立大学 21世紀科学研究機構 特認教授）	汐文社
「はたらく船大図鑑 ③ 調査する船」	監修：池田良穂（大阪府立大学 21世紀科学研究機構 特認教授）	汐文社
「はたらく船大図鑑 ④ いろいろな船」	監修：池田良穂（大阪府立大学 21世紀科学研究機構 特認教授）	汐文社
「大解説！のりもの図鑑 DX ① 工事の車」	監修・写真：小賀野実	ポプラ社
「大解説！のりもの図鑑 DX ② 特急列車」	監修・写真：小賀野実	ポプラ社
「大解説！のりもの図鑑 DX ③ サイレンカー」	監修・写真：小賀野実	ポプラ社

「大解説！のりもの図鑑 DX ④ 新幹線」	監修・写真：小賀野実	ポプラ社
「大解説！のりもの図鑑 DX ⑤ 日本全国の電車」	監修・写真：小賀野実	ポプラ社
「大解説！のりもの図鑑 DX ⑥ バス・トラック」	監修・写真：小賀野実	ポプラ社
「大解説！のりもの図鑑 DX ⑦ 列車大集合」	監修・写真：小賀野実	ポプラ社
「大解説！のりもの図鑑 DX ⑧ 自動車大集合」	監修・写真：小賀野実	ポプラ社
「大解説！のりもの図鑑 DX ⑨ 飛行機・船」	監修・写真：小賀野実	ポプラ社
【考え聞かせ】 のびるじどうしゃ	平山 暉彦	福音館書店
【考え聞かせ】 みえた！うみべのいきもののひみつ	サラ・ハースト	くもん出版
【考え聞かせ】 みえた！ジャングルのおく	サラ・ハースト	くもん出版
【考え聞かせ】 うみのいきもの どーこだ？	エリザベス・ゴールディング	パイインターナショナル
【考え聞かせ】 このあいだに なにがあった？	佐藤雅彦	福音館書店